

川辺高校同窓会報

発行

川辺高校同窓会本部

発行所

〒897-0221

南九州市川辺町田部田4150

TEL0993-56-1151

FAX0993-56-1152

県立川辺高等学校

創立百十周年行事成功に向けて



同窓会長 前野 政 美

今がまさにその時である
と思います。

各地区同窓会はもとより川辺の本部同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会の運営には格別なる御支援と御協力を賜りまして誠にありがとうございます。同窓会会則第二条に「同窓会は会員相互の親睦を厚くし、会員と母校との関係を親密にし、一致協力して母校の発展と向上を援助する」とありますが、

創立百周年記念事業を成し遂げた菊野光郎前会長より名誉ある母校の同窓会を引き受けて十年になり、気がつけば百十年の年になりました。百十年の記念式典等が近づいて参りますと、心配も増して来る昨今です。この百年に一度の不況下において、幸いに募金状況は目標設定額の五十%以上を確保できました。これもひとえに同窓生の皆様の母校や後輩たちを思う気持ちの表れであると思ふ感謝申し上げます。十一月十三日(土)の創

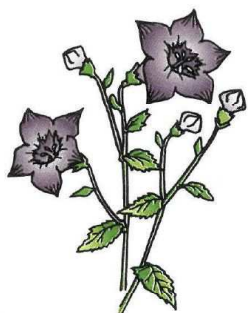
立百十周年記念式典に向けてこれまで数回の実行委員会を開き、その成功に向け努力している最中であります。

母校の現状や地域情勢を考えますと、百十年の伝統校といたしても安閑としてはおられません。現在も学校・PTA・同窓会の三者が一体となつて母校の存続に向けて頑張っています。学習刺激の少ない環境にありますので、先生方には朝夕の補習や尚学舎(百周年次の募金にて設立)での自習を通じて生徒たちに日々刺激を与え続けていただいております。

元年」であります。皆様のお陰で一昨年より空調設備が整い、現在母校の後輩たちは冷暖房のきく教室で学習に励んでいます。記念行事関係としましては、四月末の創立記念日に福岡同窓会より弁護士・南谷洋至(昭和四十九年卒)氏を迎えて講演会、五月末の音楽部定期演奏会には東京同窓会より元東京フィルハーモニー交響楽団主席ファゴット奏者の井料和彦(昭和三十年卒)氏を迎えて南九州市文化会館にて生徒との共演、六月中旬には母校の体育館を中心に記念文化祭が実施され、百十周年の年を盛り上げました。残る主な行事は九月上旬の記念体育祭、十月中旬の33km遠行、十一月十二日の神戈陵塾、そして十三日の慰霊祭・記念式典・記念講演・祝賀会です。今回の神戈陵塾は、東京同窓会より峯元政公(昭和四十六年

卒)氏、関西同窓会より茶蘭義文(昭和四四年卒)氏、そして福岡同窓会より堀内勉(昭和四二年卒)氏に講師をお願いし、翌日の記念講演会には鹿児島同窓会より元県教育次長の有馬勉(昭和四三年卒)氏を講師としてお招きする予定であります。いずれの方々におかれましても御経歴や各同窓会支部での経験を踏まえて、母校の「さらなる活性化元年」への示唆を与える話になると思われま

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げますとともに、母校へ対しまして皆様のさらなる御指導と御協力を宜しくお願い申し上げます。挨拶いたします。



創立記念式典に御参集を

校長 芳 文
校 神 田

同窓生の皆様におかれましては、ますます御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。また、かねてより母校に対しまして物心両面にわたる御支援と御協力をいただいているところですが、特に創立百十周年の募金活動におきましては、厳しい経済不況の中にもかかわらず、皆様からたくさんのお浄財を御寄付いただいていることに心より感謝申し上げます。なお、厚かましいお願いですが、目標額にあと一歩というところまで来ておりますので、今後とも御協力をよろしくお願い致します。さて、学校の方ですが、

来たる十一月十三日(土)の創立百十周年記念式典へ向けて、同窓の職員を中心に急ピッチで準備が進められているところです。当日は、多くの同窓生の皆様の御臨席を賜り、式典を盛大なものにしたと考えておりますので、同窓生の皆様には大変御多忙のこととは存じますが、是非、母校へ足をお運びいただき、後輩である在校生へ激励の言葉を掛けていただけたらと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

なお今年度は、大きな学校行事のすべてに「学校創立百十周年記念」という冠をつけて実施しているところです。終了したもののからいきますと、

◆四月二十六日(月)の創立記念日(記念講演の講師の先生は、福岡同窓会

から弁護士の南谷洋至氏)に始まり、◆五月三十日(日)の定期演奏会(ゲストとして東京同窓会から元東京フィルハーモニー交響楽団の首席ファゴット奏者の井料和彦氏)、◆六月十八日(金)の文化祭などが行われてきました。今後、◆九月十一日(土)の体育祭、◆十月二十二日(金)の三十三キロメートル遠行(創立百周年を記念して始まった明治三十三年創立にちなんだ行事)、◆十一月十二日(金)の神戈陵塾◆十一月十三日(土)の創立記念式典へと続いていきます。

神戈陵塾では、東京同窓会や関西同窓会、福岡同窓会から講師の先生をお願いすることになっていきます。また、創立記念式典当日の記念講演は、鹿児島同窓会から、元鹿児島県教育次長で、今年の三月鹿児島中央高等学校長を最後に御退職されました有馬勉氏(昭和四

十三年卒)にお願いすることになっていきますのでお知らせしておきます。

次に、今年三月の進学状況をお知らせ致します。今年の卒業生数は、合計百五十九名でしたが、国公立大学へは、鹿大・医学部・医学科へ現役合格者が出たことを始め、合計三十三名、私立大学へ四十六名、国公立短大へ五名、私立短大へ十五名、専門学校へ四十一名、就職が三名(内、公務員一名)、その他(職能大学等)が十一名、浪人六名というような状況でした。また、浪人生の中から、長崎大学・薬学部や慶応大学・薬学部、東海大学・医学部や福岡大学・医学部などへの合格者も出ています。

部活動の方は、昨年まで休部状態にあった柔道部・剣道部が活動を再開しており、体育系十六、文化系七つの部で、生徒達が一生懸命に青春のエネルギーを燃やして毎日練

習に励んでいます。

さて、先輩方に御心配をお掛けしている定員の件ですが、残念ながら今年の高校入試では募集定員百六十名に対して、推薦入試も含め百二十五名の受検者という結果に終わってしまいました。学校を預かる立場の者として、同窓生の皆様にも誠に申し訳なく思っているところです。昨年の同窓会報にも書きましたが、南薩地区の生徒数が激減している中での結果ではあったわけですが、来年度の中学卒業予定者数は今年度よりも更に九十名余り減少するようですので何としてでも四学級を維持するために定員の確保を図らねばならないと考えているところです。もちろん、職員にも四月当初に、危機意識を持って学業や部活動の指導に当たってもらいたいと伝え、今後とも気を抜くことなく、



川辺高校の活性化につながるように全職員で魅力ある学校作りに努めて参る所存ですので、温かい御支援と御協力をよろしくお願いします。

川辺高校同窓会のますの御発展と同窓生の皆様の御健康と御多幸をお祈りして挨拶に代えさせていただきます。

【追記】校長室に元NHK会長の川口幹生氏が一九九六年八月十九日にお書きになられた色紙が残っています。そこには「ふるさとの山河はみどり友はみな元氣だ」という言葉が書かれています。くだいようですが十一月十三日(土)、同窓生にとって思い出深い緑豊かな神戈陵の地に旧友達と集ってみませんか。

東京同窓会

峯元 政公
(昭和46年卒)

一 第三十四回総会・懇親会の開催

した。

平成二十二年六月十九日(土曜日)九段会館において、前野政美本部同窓会会長、政元智教頭、長野守雄教諭、水溜孝志教諭、恩師の原田(旧姓田中)マズミ先生、中村典生先生、他校同窓会の吹上高校関東地区同窓会、ふるさと会の関東知覧会、東京加世田会をお招きし、総勢二百三名の出席者により開催しました。

恒例の特別講演は、現在外国語教育メディア学会名誉会長の大八木廣人氏(昭二十七年卒相当)に「イギリスから見た薩英戦争」の演題でお話をいただきました。百二十席用意した椅子もあつという間に埋まり、会員の皆様は久しぶりの歴史の勉強に熱心に耳を傾けていま

総会・懇親会では、新卒

紹介において今年卒業した四名を含む七名の若人がステージに上がり、元氣な声で「川辺」出身、「知覧」出身と自己紹介するとその度同じ出身地の先輩から拍手が起り会場はいつきに盛り上がりました。年度幹事の昭和四十二年卒と昭和五十二年卒の方々のアイデアにより、川辺から取り寄せた「さしみこんにゃく」の持ち込みやお酒を召し上げられない方への知覧茶のサービスが大変好評でした。また、イベントは、キングレコード所属で川辺出身の辰野友泉さんに「川辺ブルース」(歌詞に諏訪、磨崖仏、塘池あり)を歌っていただき、懇親会に花を添えていただきました。是非大ヒットし

て川辺の名前を全国区に知らしめていただきたいと思ひます。

今年も元氣な姿を見せてくださいました最長老の昭和十六年卒の遠矢典夫氏に、若人に負けじと元氣な声で万歳三唱をしていただき、十一時の特別講演から始まった同窓会も十四時三十分閉会となりました。

帰りには、

出席者全員に創立百十周年記念焼酎「神戈陵」及び水溜食品株式会社提供のおいしい漬物をお土産に持って帰ってもらいました。

なお、来年の総会は六月二十五日(土)九段会館で開催

する予定です。

二 会報誌「神戈陵」の発行

毎年十月に発行していただきます会報誌は、総会の様子・陵友便り・母校便り等を満載した新聞で、故室屋敷盛氏(昭十年卒)が初代幹事長に就任した際、一年一回の総会を線香花火の行事にしたくないとの理由で始められた会報誌





校長先生が「専門学校への進学者が極めて多いことが母校の特徴」と記しており、普通科以外の科を設置してみたらどうか。どんな科を設置するかは現場をよく知る校長先生方にお願ひしたら良いと思います。

です。
三 評議員会の開催
毎年四月と十月に開催し、あわせて四月は総会案内状、十月は会報誌の発送作業を行っています。今年の四月の出席者は四十三名でした。
四 年会費
会の運営費に充てるため、会員から年会費千円をいただいています。入

金方法は、十月発行の会報誌に振込用紙を同封する方法で、二十年度の年会費の入金者率は三十三%でした。
五 卒業記念品の贈呈
今年も平成二十二年卒業生にボールペンを贈呈しました。
六 四クラス定員確保への提案
昨年発行の同誌に神田

関西同窓会

茶園 義文
(昭和44年卒)

二〇〇九年度 川辺高校関西同窓会は十一月八日(日)に大阪環状線弁天町駅近くのホテル大阪ベイタワーにて三十一名の参加者のもと開催されました。ご来賓として森田剛本部長、同窓会副会長、四月に着任された神田芳文校長先生、高校の同窓会の事務局の長野守雄先生、そして恩師として山下遥先生(昭和四十七年から昭和五十四年まで在籍英語担当)の四名の方々をお迎えすることができました。第一部の総会後の第二部の懇親会では、ご来賓の方々からご挨拶を戴きました。神田校長先生からは伝統ある川辺高校に勤務されるにあたり無上の喜びと同時に責任の重大さを感じられたとお話や、川辺高校の高校野球県大会三回戦進出などの活躍の様子や百十周年記念事業に向けての取り組みの現況についてお話がありました。また、森田副会長からも同記念事業への関西同窓会へのご理解と推進に向けて募金のお願ひがありました。長野先生は、最新の川辺高校の活動情報と出席者全員へのシオリを同封したものを準備戴き、懇親会の際には参加者の方々が熱心に資料に目を通されていたのが印象的でした。恩師の山下先生は、川辺高校は二校目の赴任で、川辺高校在籍時に結婚されたとのことで、教師時代を振り返っても大変印象深い八年間であったとの話をされました。今回は教え子の本郷(旧姓田中)美智子さん(昭和五十一年卒)と富永(旧姓田中)直子さん(昭和五十四年卒)の二名が出席され約三十年ぶりの再会となりました。また今回は長野先生にお声をかけていただき二〇〇九年度卒業で大阪の専門学校に進学された福岡守さんも出席下さいました。二次会では山下



先生と教え子の方々の間で話は尽きない感じが致しました。

今回も参加者の方々から近況を含めた一言をご紹介戴くコーナーがあり、多くの方々から大変貴重なスピーチを戴きました。宴たけなわの中、集合写真撮影後、全員で旧校歌および新校歌を声高らかに斉唱し、会員の団結と融和がはかれました。

二〇一〇年度は、母校の創立百十周年記念事業開催時期と例年十一月開催の関西同窓会の時期が重なるため、今回は二〇一一年度開催の予定です。

今後、関西同窓会も役員を含めた若返りをはかることが大きな課題となっております。

最後になりましたが、創立百十周年記念事業の大成と今後の母校の益々の発展をお祈り申し上げます。

福岡同窓会

南谷 洋至
(昭和49年卒)

平成二十一年十月十七日(土)十四時〜十六時三十分から、第二十一回福岡同窓会がいつもの福岡国際ホールで開催されました。お陰様で、今年も三十九名の福岡同窓生が、母校と本部同窓会より、前野政美同窓会長(昭和三十年卒)、神田芳文校長先生、水溜孝志先生(昭和五十五年卒)と長野守雄先生(昭和四十二年卒)の四名のご来賓をお迎えすることができました。

神田校長先生からは、本校の現状と在校生の健闘ぶりをお話いただき、連綿と続く母校の伝統を本当に実感致しました。

当日は福岡同窓会員の

を歌うころには、会は最高潮でした。

万歳三唱後、

最後に南谷知成(昭和三十六年卒)前会長が来年の再会を期して挨拶しました。

毎年、福岡

同窓会の二次会は福岡市役所近くのもつ鍋店で行われますが、今年も四階の部屋を借り切った二次会となり、二十名以上が集まり、

夜遅くまであいやらこいやら話で時間を忘れるぐらい話が弾みました。

佐多同窓会長の同級生

が東京から、南谷事務局長の同級生が川辺からと、本会および二次会まで非常に盛り上がりました。次の日は、頭がガンガン

でした。最後になりましたが、母校川辺高校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



宮崎同窓会

松山 輝雄
(昭和34年卒)

日豊本線・都城駅を降りて西へ三分、都城グリーンホテルで、平成二十二年一月二十四日、平成二十一年度川辺高等学校同窓会・宮崎支部総会・懇親会が催されました。

一年で一番寒い時期というのに、穏やかでとても気持ちの良い天気でした。

母校からご来賓として、高田政雄同窓会副会長、神田芳文校長先生、中尾龍二先生にご参席いただき、有意義で、懐かし、楽しい集まりとなり、学校、同窓会関係の皆様にご感謝の気持ちでいっぱいです。

総会は、芝原文新会長の、ご来賓、出席者への歓迎・感謝の挨拶で始まり、ご来賓の方々からの母校での教育実践の状況、創立百十周年記念事業、

行事等の情報をお話いただいた後、定例の議事・報告が滞りなく行われました。

懇親会では、出席者それぞれの個性あふれる、順繰り自己紹介スピーチに耳を傾けながら、回る中華料理とまわるお酒にかくし芸に、目を見張りながら年の一回の逢瀬を心行くまで楽しく過ごすことができました。最後に、新旧校歌を斉唱するなか、十一月の創立百十周年記念行事に想いを馳せながら、母校の益々の繁栄と発展をみんなで誓い合いました。

川原 一則(昭和42年卒)

平成二十二年一月二十四日、宮崎同窓会は三年ぶりに都城で「都城グリーンホテル」を会場に開催されました。ご来賓



として、同窓会本部と学校から同窓会副会長高田政雄様、校長神田芳文様、事務局の中尾龍二様に出席いただきました。

川辺高校も少子化の影響で、生徒数が減少していること、生徒たちの活躍の様子など聴かせていただきました。また、本年度から会長として就任された芝原会長の力強い抱負の後、懇親会に入り旧交を深めました。都城で開催されるのは、

三年に一度ですが、前回は予想に反して東国原知事が誕生しその活躍が期待され、また、鳥インフルエンザの大流行で全国のマスコミを賑わしました。

今回も政権交代とともに、家畜の口蹄疫問題で宮崎県は大変な時代を迎えています。県民は何時終息するか、これからの宮崎県の農業はどうなるのかなどと気をもんでいます。

宮崎県支部は、平成元年一月二十九日に結成さ

れました。今でも鮮やかに覚えていますが、その第一回の総会は宮崎市絹小路のクラブを会場に、厳粛な中にも和やかに行われました。

今回で二十二回目を迎える参加者数は二十名前後と減ってきており寂しい気もしますが、今後も前会長大坪様のご努力ご尽力の後を受け、芝原会長を盛り立てて引き継いでいきたいと思っています。

最後になりましたが、事務局の方々のご尽力に感謝し、川辺高校のますますの発展と各同窓会の盛会を祈念し、報告いたします。

川辺同窓会

神村 英則
(昭和62年卒)

毎年夏恒例の川辺高校

同窓会が平成二十一年八月八日「広瀬亭」で盛大に開催されました。男性は昭和六十二年卒、女性は平成八年卒が担当となり

準備してきました。当日は九十人余の参加者を迎えて、ボランティア活動の一環で出演して頂いた川辺高校音楽部吹奏楽団皆さんの軽快な



オープニングセレモニーで始まった総会は、同窓会会長の挨拶、平成二十年度活動報告、同決算報告・監査報告と平成二十一年度活動計画・予算そして創立百十年事業計画等すべて承認されました。

幹事代表挨拶の後、鹿児島同窓会椎原会長の乾杯の音頭で引き続き開催された懇親会では、川辺磨崖仏太鼓保存会の皆様

響き渡りました。

久しぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花を咲かせたりや前野会長とのジャンケン大会などで盛り上がりたり、しばらく歓談の後、在学当時を思い出しながら、旧中学校、高校の校歌を参加者全員で合唱しました。

政元川辺高校教頭先生の万歳三唱の後、来年度代表幹事（昭和六十三年男性）の挨拶で一年後の再会、創立百十年の成功を誓い閉会を迎えました。

今回の同窓会が例年同様盛大に開催できましたのも同窓会事務局の先生方、同窓会各支部役員の皆様方のご尽力の賜物と改めて心から感謝申し上げます。

また、オープニングで演奏していただいた音楽部吹

奏楽団皆さんの活き活き、澁刺とした演奏や笑顔を拝見し、「フレ、フレ、川辺、フレ、フレ、辺高。」とエールを送りたく

なりました。

最後になりましたが、創立百十年を迎える母校川辺高校の益々のご発展をご祈念申し上げます。

南九州市職員 川辺町神戈陵会

芝原 和己
(昭和53年卒)

第二十回平成二十二年総会を六月二日、ビジネスホテルニューオカノにおいて開催しました。

また、次年度も引き続き母校及び在校生への活動支援を実施することや創立百十年記念事業への支援と会員親睦

の万歳三唱の後、来年度代表幹事（昭和六十三年男性）の挨拶で一年後の再会、創立百十年の成功を誓い閉会を迎えました。

役員改選については、新会長に徳丸俊治氏、副会長に楠元章一氏、安山久美子氏が選出されました。その後、本年度新規加入の水溜咲氏（教育委員会学校教育課勤務、都合により欠席）の紹介もなされ、第二十回総会

知覧町、旧額娃町の同窓生で組織する各神戈陵会の組織統合に向けた取り組みでは一定の方向性が見いだせたことで次年度でのさらなる取り組みを要望されました。

議事については、会員親睦会の開催に旧知覧町、旧額娃町から多数の参加があったことや母校への支援等が報告されました。



終了しました。

引き続き開催された懇親会は、前野政美同窓会々長、神田芳文校長をはじめ六名の先生方に参加をいただき、徳丸新会長から母校創立百十年記念事業募金活動への協力・支援の推進、会員の親睦、組織の統合など力強いあいさつの後、前野同窓会長から創立百十年記念事業への協力、会員

子弟の母校への進学促進等をお願いがなされ、神田校長からは本会からの助成金の使い道とお礼のあいさつがありました。

本会名誉会員の霜出勘平南九州市長の「カン

ペー」の音頭で乾杯すると、職場が川辺、知覧、額娃とそれぞれ違う中で、年代を超えた「旧知の友人との語らいの場」となりました。宴たけなわの中、参加された高校の先生方の紹介があり、なぎなた部顧問の柗元陽子教諭からなぎなた部の状況や各種大会の実績と本会支援に対するお礼の報告がありました。

参加者は時間が経つのも忘れ、名誉会員の霜出市長と鶴田副市長、前野同窓会長、神田校長や先生方にも最後までおつきあいいただき、大いに盛り上がった懇親会となりました。

二十二年度の三役と書記は知覧庁舎勤務となり

ますが、母校創立百周年記念事業に向けたさらなる支援活動を展開して

いくことに期待したいと思えます。

枕崎・坊津同窓会 地区PTA報告

PTA副会長
酒匂 明彦

平成二十一年九月四日、昼間は盛夏をおもわす日差しながら、秋の気配感じる夕刻、枕崎のお魚センターにて地区同窓会と合同で地区PTAを開催致しました。学校側からも校長先生をはじめとして数名の先生方において頂き、同窓会員の出席者は少なめでしたが、地区PTA会員はほとんど出席でした。

子に、その危険性をしっかりと伝えていきたいの思いからでした。おりしも、清纯派女優が逮捕され、関心が高まっている時だけに興味津々だった

神田校長先生から挨拶を頂いた後、麻薬撲滅キャンペーンのDVDを上映しました。都会では簡単に覚醒剤が手に入ると言われる近年。わが



ようです。その後のアンケートにも「あんなにたくさん種類のがあるとは思わなかった」「恐ろしさも充分分かった」「子どもにも見せたい」との感想でした。

その後同窓会員の吉見さんの乾杯の音頭で親睦会が行われ、丸テーブルを囲んで日頃会話のない者同士が、同じ高校生の

保護者として喜びや悩みを共有できたのは意義深いものでした。欲を言えば、同窓会員のもう少しの出席と、保護者と先生方との交流があまりできなかったのが心残りでした。少子化で生徒減少のなか、川辺高校の良さを少しでも分かち合える場になるよう、今後取り組みでいこうと思います。

南さつま神戈陵会

幹事
中馬 悟
(昭53年卒)

平成二十二年度南さつま地区神戈陵会総会・懇親会が、平成二十二年七月十日(土)午後六時三十分より例年の会場でありま

先生と栗ヶ窪先生の総勢六名の御来賓が御参加くださいました。

す、昭和三十九年卒業の今村勝徳氏が経営する南さつま市の「レストランブルドッグ」で開催されました。当日は、学校側より前野政美会長様、神田芳文校長先生、宇都和久PTA会長・政元教頭先生・同窓会事務局長の長野

初めに亡師亡友の霊に黙祷をささげたあと早速旧校歌・現校歌を斉唱したことで、同窓会ムードに一変しました。

上東会長より、来賓及び会員の出席者に対する御礼の挨拶の後、前野会長より、百十周年に向けてのお話と神田校長先生より学校の現況について

より学校の現況について



お話がありました。昨今の少子化に伴う生徒数の減について、我が母校も時代の変遷とともに厳しい状況にあると実感いたしました。私たち卒業生ができることは、川辺高校で学んだという誇りと自信を持って、自分の学生時代を思い起こし、母校の良さを機会あれば語るといふことだと思えます。また、卒業生の皆さんがそれぞれの地区の同

窓会にできるだけ多数参加して交流を深めることで自然と同窓会が活力となり裾野が広がると信じます。

さて、今回は、昭和十七年卒業で米寿を迎えられた、二宮邦夫・西秀美・春成文夫の三名の大先輩が出席されましたので、上東会長よりお祝いの粗品をお渡しして、出席者全員で米寿をお祝いいたしました。大変盛り上がり、時間が経つのも早いもので、いつもの文句「宴たけなわですが、この辺で閉めたいと思います」とのあと、政元教頭先生の万歳三唱で締めくくりお開きとなりました。

本部同窓会事務局の皆様は、創立百十周年の式典準備に大忙しとは存じますが、健康に留意されまして、御活躍下さいますようお願いいたします。



【最終回となる第三十二回
陵寿会は三月十三日開催
された】

陵寿会は鹿児島県立川辺高等学校東京同窓会の分身として昭和五十四年に創立された。会のメンバーは還暦以上の会員を以って構成する事にした。毎年還暦となった新人を迎え、現役勤務を慰労し、神戈陵時代を回顧しながら旧交をあらたにした。

た西春彦大先輩も出席なされた。その他、多士済々の先輩も多く出席され、有意義な思い出や生き方を話してくれたと言う。二代目世話人は白石晃三氏（昭和一九年卒）が務められ、不肖私

が三代目となった。

私は新制高校二回生。第二次世界大戦から敗戦を経て新制高校の二回生となり、神戈陵下で都合六年間を過ごしたことになる。私は昭和二十六年に上京。同三十年に横浜国立大学を卒業し読売新聞社に入社した。還暦を迎えたのは平成四年であった。その時、世話人である同郷人でもある黒松竹男氏（兄貴の同僚で入社時の保証人）から入会を勧められたが、定年延長でまだ勤務中だったので丁重にお断りした。そして、

勤務を終えたのは平成十年七月（六十六歳）であった。それから陵寿会に関わりを持ち、平成十四年から白石晃三氏の後を引き継ぎ三代目の世話役となった次第。世話人となつてまず驚いたのは還暦入会とは全く絵空事であった。時代は六十歳定年に伸び、また大方は六十五歳まで延長勤務も出来るようになっていた。従つて入会者は少なくなり、

陵寿会出席者にも新制高校卒業者が少ない状況である。近年は少子化のため卒業生も関東方面への大学生や就職者も少なくなっている。設立当初の趣旨も分別出来ない世代が多くなっている。

今年の陵寿会は三月十三日例年通り三州倶楽部で開催された。会員の出席者は四十九名。母校からは神田芳文校長と蔵前勇教諭、本部同窓会から前野政美会長のご出席をいただきました。校長は

「少子化の状況から南薩地区高校はいずれも定員割れを起こしています。我が川辺高校も四学級を辛うじて満たすことが出来ました。しかし、国公立進学生数は年々増加しています。と言うこと



も「川辺高校は百十周年の歴史と伝統を誇る栄えある母校です。私も県の当局に当って身を粉にして頑張ります。皆さんの協力で母校の設備でも他に負けないものを造ってきました。高校が無かつたら川辺には誇

は学力のレベルが上がっていることの証であります。先生も学生達も本当に頑張っています。県内でも統廃合が進められていますが、名門の名を残すべく頑張らなければならぬと痛感しております。他の高校は既に実施している空調を我が校も実施しましたが、この工事費の寄付をお願いしております。是非母校の為に協力をお願いいたします」と申されました。前野会長

も「川辺高校は百十周年の歴史と伝統を誇る栄えある母校です。私も県の当局に当って身を粉にして頑張ります。皆さんの協力で母校の設備でも他に負けないものを造ってきました。高校が無かつたら川辺には誇

還暦同窓会

有馬 勉
(昭和43年卒)

☆川辺高校昭和四十三年卒業 還暦同窓会盛大に開催される☆

昭和四十三年三月に川辺高校を卒業した同級生の還暦同窓会が、平成二十二年五月二十二日(土)午後二時三十分から鹿児島市のサンロイヤルホテルで開催されました。

関東・関西をはじめ、県内外から参加した卒業生

るべきものがなくなるのです。お願いします。」とご挨拶をしました。

今回をもって陵寿会も閉会となりますが、これからは鰯坂会長も「同窓会の最前中央に我々年長者の席を設けると申しています。」今後は全員で六月の東京同窓会に集まり歓談しましょう。

八十名は、久しぶりの同級生との再会を喜ぶとともに、駆けつけてくださった四名の恩師の先生を囲みながら、川辺高校時代の思い出を語り、還暦を迎えられたことを喜びあいました。

当日は、はじめに神事が執り行われ、恩師の先生と同級生代表の玉串奉奠により「厄」を払い、今後の無病息災長寿を祈願しました。神主さんは泉さんという方で、徳之島の長寿日本一であられた泉重先代さんの親戚とのこと、会場は長寿になれそうな明るい空気に包まれました。

続いて記念撮影。全体、学級ごとに写真を撮りましたが、「どちらが恩師の先生か生徒か分からない」との囁きに、一同爆笑。

物故者への黙祷、開会

の挨拶、同級生代表挨拶、恩師一人一人からの祝辞と進行していききました。昭和四十三年卒業生は、

団塊の世代最後の生まれです。戦後の窮乏期を必死に育ててくれた親に感謝、「人の道を踏み外さないよう、社会有為の人材となるよう」導いてくださった恩師の先生方に感謝しつつ、当手を懐かしく思い出しながら話に聞き入っていました。

乾杯により祝宴。これまで幾度となく開催してきた同窓会ではありましたが、卒業以来初めて参加した人、毎回参加した人それぞれが、一瞬にして神戈陵時代にタイムスリップして思い出話、手柄話、初めてあかす秘話に会場は大いに盛り上がりました。

参加者の胸中には、自身の体調不良や親の介護等により参加できなかった同級生への思いと、還暦同窓会ということから、

これまでの人生を振り返るとともに、これからの安寧な人生への期待の入り混じった、これまでの同窓会とは異なるひとしおのものが去来しているようでした。同会場では、二次会、三次会と別れを惜しんで夜が更けるまで宴は繰り広げられました。今回は、二年後東京での

開催が決まり、「お互い元気であおう」と誓い合いました。

なお、途中、母校百十周年記念に向けて、森田同窓会副会長の呼びかけにより、母校の振興発展を願って七万円余の寄付が寄せられたことも付記しておきます。



サッカー部活動報告 復活! 剣道部・柔道部

同窓会の皆様へ

【サッカー部】

部長 三年 大堀 良平

同窓会の皆さま、いつも私たちの応援ありがとうございます。

私たちはサッカー部の目標は、最後のインターハイ予選で、ベスト8以上を目標とし、「後悔だけではない全力のプレーをしよう」と決めていました。

そして、最後のインターハイ予選では、池田高等学校に延長戦で惜敗という結果に終わりましたが、結果は残念でしたが、



私は三年間の集大成にふさわしい試合だったと思いました。最後まであきらめず、仲間を信じることでできたので、目標である「後悔だけではない全力のプレー」が達成できたと思います。この目標が達成できたのも、矢野先生のご指導をはじめ、学校や親の協力のおかげです。

そして、先輩方の「きつい時こそ声を出せ」という言葉も試合中にとても大きな支えとなりました。

これからも、神戈陵魂を常に持ち、何事にも全力で打ち込みたいと思います。

同窓会の先輩方、今後とも応援よろしく願いいたします。

【剣道部】

二年 濱口 真佑美

皆さん、こんにちは。私たち剣道部は、二年間部員がいなくて休部とい



う形になっていましたが、今年部員が七名となり、活動を再開することができました。だから、最近の試合成績はありませんが、今、私たちは新人戦に向けて日々励んでいます。基本練習などをして、部員同士でもよくない所は教え合い、よい雰囲気練習できていると思います。基本だからと手を抜かず、竹刀の一振り一振りが心の糧となるように努力し、試合でよい結果を残したいです。

そして、普段の学校生

活では、積極的に大きな声であいさつをするようにしています。剣道をするときも、声を出すことは大切なので、それを学校生活でもしっかりしていこうと思います。

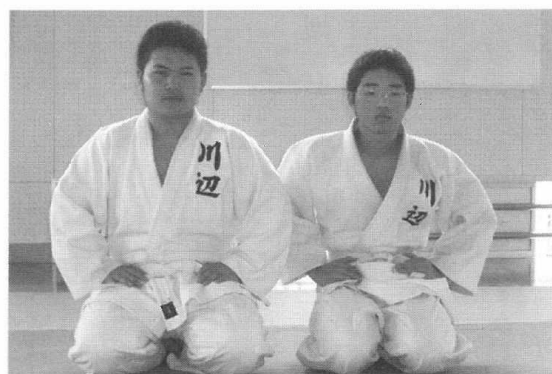
これからも神戈陵魂をもち、心身ともに練磨していきたいと思っています。同窓会の先輩方、今後とも応援よろしく願います。

【柔道部】

主将 山室 翔

僕たちの川辺高校柔道部としてのこれからの抱負は、歴代の先輩方のように強くて、仲間思いで、協調性があり、学校側からの信頼がある、そんな部活にしていきたいという事です。

川辺高校生としての自覚や責任を持って、他校の生徒や先生や保護者の方々などに、高校生らしいからぬ行動をとって、悪い印象などを与えないよ



うにしていこうと思います。

僕たち、川辺高校柔道部としての夢は、歴代の先輩方や保護者の方々に胸を張って報告できるような成績を残して、その成績に応じて、新入部員がたくさん入部してもらうという事です。そして、学校や地域の人たちからたくさんさんの信頼を得られるような、川辺高校の中心となる大きな部活にしていきたいです。素晴らしい先輩方に精一杯頑張って活動してい

たいと思いますので、応援よろしく願います。

川辺高校創立百十周年記念神戈陵祭を振り返って

三年 宇都魁斗(生徒会)

去る六月十八日(金)、川辺高校体育館で、川辺高校創立百十周年記念神戈陵祭(文化祭)が盛大に開催された。この日のために準備や練習を重ねてきた私たちは、あいにくの豪雨など全く気にする様子もなく、むしろ、空を焦がすほどに燃えていた。

今回の文化祭のテーマは、『Bright 110th Anniversary』。未来につなぐ今。生徒一人一人が、このテーマにふさわしく「今を輝いていた」ように思う。開会式で上映されたオープニングムービーは、辺高生全員が出演しているのではないかと思えるほど大勢が音楽に乗せて

川辺高校の百十歳を祝うというものだった。会場には、割れんばかりの拍手と「Happy Birthday」の声

一・二年生が活躍した展示・バザー部門も見どころ多きものとなった。一年生全員が力を合わせて作った巨大なモザイク画はまさに圧巻。昔と今の川辺高校の姿を目に焼き付けた人も少なくはないだろう。二年生は、各クラス毎に日本の祭りや先生方の写真、川辺高校の歴史や若者の略語などユニークな題材の展示で観る人を楽しませた。一・二年どちらのバザーも大盛況だった。

舞台発表はどの団体も素晴らしかった。三年生はクラス毎の発表で、劇やダンスで観客を大いに沸かせた。他にも、繊細且つ大迫力の音楽部の演奏や美しい字で会場を魅了した書道部のパフォーマンス、滑らかで心地よい英語で披露されたESS部の英語スピーチと英語劇、恋と友情をテーマにした三年四組の英語選択者による英語劇、職員合唱、一般参加、川辺高校生クイズ等々、その全てが今回の文化祭の見所だった。

また、百十周年の歴史と伝統を受け継いでゆく今年、会場が例年の川辺文化会館から、川辺高校体育館に戻ってきた。この変化に最初は戸惑ったが、短い準備期間で臨機応変に対応し、見事文化祭を成功させた。今年の文化祭は川辺高校生の底力を垣間見ることができた価値ある文化祭であり、伝統ある川辺高校の百十周年を飾るにふさわしい、素晴らしい文化祭だった。

鹿児島同窓会

事務局長
寺師 慶志
(昭和41年卒)

鹿児島同窓会の「神戈陵のつどい」(総会・懇親会)は七月二十四日(土)、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、八十四人が出席しました。来賓として川辺高同窓会顧問の東裏さん(昭和二十八年卒)、川辺高校の神田芳文校長、政元智教頭と教諭三人がかけつけました。

総会は冒頭、亡師亡友へ黙とう。当番学年の四十二年卒・田中義博さんが開会あいさつとして「元農政審会長で東大名誉教授・川野重任氏(昭和四年卒)のご逝去を悼みます」と前置きしたあと、「今夜はつらいことをしばし忘れて、来てよかったと言えるような同窓会にした」と述べました。

鹿児島同窓会の椎原耕会長が「これだけ多くの

人が集まってくれて幸いです。この暑さは、われわれ年寄りにはこたえるが皆さんの元気な顔をみてほっとした。短い時間だが楽しい一夜にしましょう」とお礼を述べました。

来賓祝辞として、東顧問は「ことは創立百十年の節目。記念式典の当日は大勢の参加をお願いします。募金活動も目標の五十%を超えました。あらためてお礼申し上げます」。神田校長も「ほんとに厳しい経済状況の中で、貴重な浄財をいただきありがとうございます」と述べました。

ひき続き神田校長は進学校状況や部活動の成果など学校の現況を説明。「鹿大医学部医学科の現役合格は十五、六年ぶりのことで特筆されます。二浪ながら昨年も合格者を出

しています。素直でいい生徒ばかりだがシリに火がつくのが遅い」。

一方、「今一番の悩みは定員確保です」。今春、百六十人の定員に対して百二十六人が入学、大きく定員割れした。少子化で中学校卒業生が学区全体で八十人減少、来年は川辺学区、指宿学区が南薩学区として統合されるがそれでも九十一人減少するという。「進学、部活動の実績を上げていきたい」と結びました。

総会承認事項の監査報告を監事の黒松武蔵さん(三十八年卒)が行い、「栃木莊次さんと完全な形で監査が終了した。年会費の納入者がもつと増えるように周知徹底できればいいのだが」と課題を提起しました。

事務局からのお願いとして「転居先・消息不明のかつての鹿児島同窓会メンバーをできる限りフォローしていきたいのでご

協力を」と要請しました。

総会はスムーズに終了。懇親会は、杵元陽子さんと西田加奈子さんによるなぎなたの演武で始まり「エイ、ヤッ」——ぴんと張り詰めた舞台を見守る席も咳払いひとつ出ない緊張感が張り詰めていました。

鹿児島同窓会副会長の野添悦子さん(三十年卒)が乾杯の発声。

「川辺ブルース」など四十二年卒・辰野友泉さんの歌謡ショー、校歌斉唱は世代別の全員参加となりました。鹿児島同窓会幹事長・溝口逸王さん(三十年卒)の万歳三唱で盛会のうち

に閉じました。今回は平成十二年卒・松山正樹さん(川商ハウス)、十七年卒・永吉隆信さん(日

本興亜損保)の若者が出席。自己紹介や各テーブルを回って百周年記念焼酎「神戈陵」の売り込みに汗を流すなど頼もしいかぎりでした。

総会・懇親会ともに司会・進行役は長野守雄さんがつとめました。受付、会場設営など四十二年卒のみなさん、ご苦労さ



事務局だより

中尾 龍二
(昭52年卒)

【さらなる活性化元年の幕開け】

川辺高校の「さらなる活性化元年」を目指した創立百十周年の幕が開きました。二月六日(土)には、川辺の要所に創立百十周年を祝う看板が設置され、垂れ幕も掲げられました。

【同窓会入会式】

第六十二回卒業式を前にした二月二十六日(金)の同窓会入会式では、鹿児島大学医学部医学科に現役合格を果たした東祐大君を含めた百五十九人に対して、前野同窓会会長から伝統ある同窓会への入会が許可されました。また、東京同窓会から贈呈された恒例の卒業記念のボールペンも卒業生全員に手渡されました。

【創立記念講演会】

新年度が始まった四月二十六日(月)、創立記念

講演会が実施され、福岡同窓会の弁護士南谷洋至氏(昭49年卒)をお招きし、「私の『いま、ここ、自分』」という演題で御講演いただきました。

講演の中で、南谷氏は、歴史と伝統を持つ母校は卒業生が誇れる学校であること、校訓「自律・端正・積極・公德」の大切さ、そして、肉親以外の人から「あなたに会えてよかった。ありがとう」と言われる人を一人作って下さいと後輩へメッセージを託されました。

最後に、日本万歳連合会会長の肩書を持つ南谷氏の音頭のもと、聴講者一堂による母校の繁栄を願う万歳三唱の声で、講演会は終了しました。

【百十周年記念事業について】

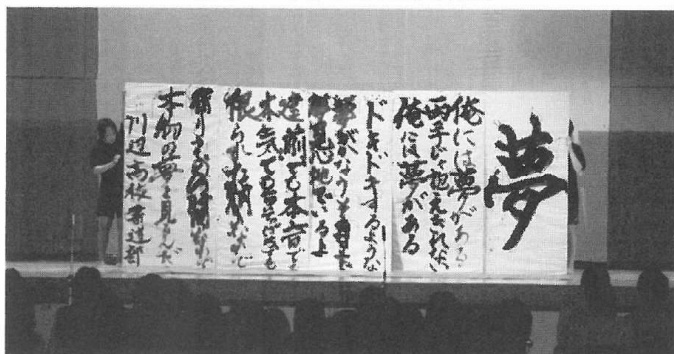
同窓生の皆様には、創

立記念事業に向けて募金活動への御理解と御協力をお願いしてきました。昨今の厳しき経済状況にもかかわらず、各地区の同窓生の皆様から多数の御浄財が寄せられています。衷心より感謝申し上げます。

皆様から頂いた御浄財は、母校のさらなる活性化にとつてもぜひ必要な入学定員確保のため、南九州市、南さつま市、枕崎市の全中学生に百十周年記念クリアフォルダーを贈る資金に使わせていただきます。また、記念式典を始めとした各種事業に有効に使わせていただきます。

最後に、創立百十周年記念式典・記念祝賀会は、十一月十三日(土)に開催されます。当日は是非、母校にお集まりいただき、川辺高校で過ごした青春の日々を、懐かしき友と心ゆくまで語り合ってくださいと思います。

創立110周年記念文化祭



書道部パフォーマンス



松山國治(昭和27年卒)夫人出品の十二単

創立110周年記念事業募金状況 22.7.12現在

番号	地区支部名	延べ件数	募金額	手数料
1	東京同窓会	385	4,199,804	42,090
2	東海同窓会	23	232,000	3,060
3	関西同窓会	123	976,000	15,570
4	福岡同窓会	61	1,796,000	8,240
5	熊本同窓会	18	163,000	2,340
6	宮崎同窓会	24	377,000	3,430
7	鹿児島同窓会	235	1,610,000	27,280
8	川辺同窓会	776	5,607,000	9,310
9	南さつま	52	581,000	5,820
10	知覧・頤娃	60	360,000	4,970
11	枕崎・坊津	13	110,000	1,530
12	県内	22	127,000	2,360
13	同窓会(同期会)	9	183,954	0
14	川辺高校職員	59	553,000	3,670
15	協力者(業者)	5	93,000	530
16	全国	10	53,000	840
17	預金利子	2	525	
	合計	1,877	17,022,283	131,040

川 辺 高 等 学 校 同 窓 会
平成21年度 収支決算書

収入の部

(H. 21. 8. 1~H. 22. 7. 31)

費 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減	備 考
入 会 金	161,000	126,000	△ 35,000	1,000×126人
会 費	318,000	318,000	0	2,000×159人
総 会 収 入	400,000	338,500	△ 61,500	参加費 293,000円 寄付 45,500円
繰 越 金	200,294	200,294	0	
繰 入 金	670,000	300,847	△ 369,153	定期取崩
雑 収 入	10,706	3,992	△ 6,714	受入利息、同窓会名簿売上
計	1,760,000	1,287,633	△ 472,367	

支出の部

費 目	予 算 額	支 出 済 額	不 用 額	備 考
総 会 費	400,000	338,500	61,500	
需 用 費	150,000	99,750	50,250	会報印刷代
通 信 費	20,000	13,300	6,700	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	54,651	45,349	弔電、香典、転退職者への記念品代
旅 費	600,000	334,930	265,070	各地区同窓会への出会旅費
負 担 金	280,000	240,000	40,000	各地区同窓会への負担金
高 校 振 興 費	100,000	30,867	69,133	中高連絡会費
雑 費	100,000	51,759	48,241	各地への土産代、資料代
予 備 費	10,000	0	10,000	
計	1,760,000	1,163,757	596,243	

収入済額 - 支出済額

1,287,633 - 1,163,757 = 123,876円 来年度への繰越 123,876円

特別基金

平成22年7月31日現在合計 3,059,601円 (鹿児島銀行の定期預金)

収入の部

平成22年度 予 算 書 (案)

(H. 22. 8. 1~H. 23. 7. 31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	161,000	△ 1,000	新入生 1,000×160人
会 費	288,000	318,000	△ 30,000	卒業生 2,000×144人
総 会 収 入	400,000	400,000	0	
繰 越 金	123,876	200,294	△ 76,418	
繰 入 金	520,000	670,000	△ 150,000	定期の取崩 520,000円
雑 収 入	8,124	10,706	△ 2,582	利息、他
計	1,500,000	1,760,000	△ 260,000	

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	総会
需 用 費	120,000	150,000	△ 30,000	同窓会報、その他
通 信 費	20,000	20,000	0	
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代、他
旅 費	450,000	600,000	△ 150,000	各地区同窓会への出会旅費
負 担 金	250,000	280,000	△ 30,000	各地区同窓会への負担金
高 校 振 興 費	80,000	100,000	△ 20,000	中高連絡会の費用
雑 費	70,000	100,000	△ 30,000	
予 備 費	10,000	10,000	0	
計	1,500,000	1,760,000	△ 260,000	

各地区同窓会連絡先			事務局 川辺高等学校		TEL 0993-56-1151
			〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田 4150		FAX 0993-56-1152
川 辺 同 窓 会	会 長	長 前	野 政	美 高	7
	副 会 長	東 東	政 眞	高 高	1 3
	副 会 長	上 村	書 祐	高 高	1 3
	副 会 長	中 田	祐 政	高 高	1 4
	副 会 長	蘭 深	幸 磯	高 高	1 5
	副 会 長	川 久	子 子	高 高	1 5
	副 会 長	森 松	剛 毅	高 高	1 6
	副 会 長	高 久	雄 規	高 高	2 0
	副 会 長	鮫 島	治 治	高 高	2 4
	副 会 長	徳 丸	充 一	高 高	2 5
	副 会 長	久 松	一 也	高 高	2 6
	副 会 長	木 宇	信 一	高 高	2 7
	副 会 長	板 野	浩 一	高 高	2 9
	副 会 長	高 小	美 子	高 高	2 9
	副 会 長	倉 大	秀 男	高 高	3 0
	副 会 長	有 菊	光 郎	高 高	3 2
	副 会 長	東 東	襄 雄	高 高	7
	副 会 長	野 守	雄 雄	高 高	7
	副 会 長	野 守	雄 雄	高 高	1 5
東 京 同 窓 会	会 長	長 鯉	郎 子	高 高	9
	副 会 長	辰 元	美 子	高 高	9
	副 会 長	足 立	弘 公	高 高	1 0
	副 会 長	大 平	政 公	高 高	1 1
	副 会 長	峯 元	健 一	高 高	2 3
東 海 同 窓 会	会 長	飯 野	志 夫	高 高	3
	副 会 長	二 反	男 輔	高 高	7
	副 会 長	日 置	夫 夫	高 高	1 0
関 西 同 窓 会	会 長	岩 屋	大 造	高 高	1 6
	副 会 長	梅 橋	美 子	高 高	6
	副 会 長	河 津	文 文	高 高	1 5
福 岡 同 窓 会	会 長	佐 多	竹 良	高 高	2 0
	副 会 長	堀 内	勉 一	高 高	1 9
	副 会 長	上 野	修 洋	高 高	2 0
熊 本 同 窓 会	会 長	酒 梅	光 郎	高 高	2
	副 会 長	丸 野	真 一	高 高	1 5
	副 会 長	原 田	政 十	高 高	3 4
宮 崎 同 窓 会	会 長	芝 泊	政 郎	高 高	1 9
	副 会 長	和 松	吉 雄	高 高	1 4
	副 会 長	松 山	輝 雄	高 高	2 0
鹿 児 島 同 窓 会	会 長	椎 原	耕 三	高 高	1 1
	副 会 長	前 橋	造 一	高 高	3
	副 会 長	岡 本	守 子	高 高	2
	副 会 長	大 野	子 子	高 高	5
	副 会 長	溝 添	王 次	高 高	5
	副 会 長	黒 木	蔵 弘	高 高	7
	副 会 長	池 田	志 志	高 高	7
	副 会 長	寺 師	慶 慶	高 高	1 3
	副 会 長	黒 池	武 武	高 高	1 5
	副 会 長	黒 池	武 武	高 高	1 8
南 さ つ ま 地 区 同 窓 会	会 長	上 東	書 三	高 高	1 3
	副 会 長	中 野	良 嗣	高 高	2 7
	副 会 長	西 尾	浩 二	高 高	2 9
	副 会 長	木 場	正 英	高 高	2 5
	副 会 長	松 久	毅 昭	高 高	2 5
知 覧 地 区 同 窓 会	会 長	市 宮	楊 子	高 高	2 4
	副 会 長	山 見	昭 榮	高 高	1 8
	副 会 長	床 安	孝 孝	高 高	1 4
枕 崎 地 区 同 窓 会	会 長	中 吉	了 光	旧 中	3 9
	副 会 長	森 戸	子 孝	高 高	1
	副 会 長	戸 床	孝 孝	高 高	2 4